

さんのみやしもきつねいせき

## 三ノ宮・下木津根遺跡

(伊勢原市No.106 遺跡)

調査期間 20101116～20110215

所在地 伊勢原市三ノ宮

時代

弥生  
古墳  
古代  
近世



作成日:20110304 更新:20111020

### 概要

本遺跡の発掘調査は神奈川県平塚土木事務所による県道63号(相模原大磯)地方道路等整備事業に伴って行われました。現在、出土品等整理作業を行っています。

遺跡は伊勢原市南西端と平塚市北西部との市境付近にあり、大山山麓の裾野東端に広がる伊勢原台地の南西縁辺部、標高32m前後の南北に細長い台地の西端に立地しています。

調査成果として、近世では、旧大山街道と推定される道状遺構が検出され、新旧関係のある3面の硬化面が確認されました。宝永火山灰降灰以前から使用されており、以降も使用されていたことが分かりました。道の掘り込みを覆っていた土からは、肥前系、瀬戸美濃系を中心とした陶磁器類が出土しました。

平安時代では、竪穴住居跡が1軒のみ検出しており、貯蔵穴と思われる掘り込みや、床下土坑といわれる円形の掘り込みが見つかりました。

弥生時代から古墳時代では、竪穴住居跡と方形周溝墓が見つかりました。これらの遺構から出土した土器の中には、



▲ H1号方形周溝墓出土タタキ甕

地元で作られた土器に混ざり、現在の静岡県から愛知県にかけての地域及び関西、また北陸で特徴的に見られる土器が含まれていることが分かりました。多くは、その地方の土器の製作方法などを模倣した土器ですが、特に関西で特徴的に見られるタタキ甕は、実物が持ち込まれている可能性が高く、モノ、人の動きを示す資料といえます。また、このタタキ甕は、ほぼ完形で出土しており、これほど残りのよい資料は県内でも珍しく、貴重な資料といえます。

縄文時代では、出土品等整理作業を行っている中で、出土した土器に混じり、早期の条痕文系土器や中期後半、後期の土器片が数片見つかりました。



▲ H1号方形周溝墓出土高坏



▲ 同 高坏 内面文様